

# オミクロン株に係る県内医療提供体制の今後

医療コーディネーター 佐々木秀章

20211226

県内のオミクロン株感染者数は、12月25日時点で確定またはL452R陰性13人、濃厚接触者は61名であり、いずれも感染者のリンクは追えているため市中感染としては扱われていない。封じ込めの可能性は残されているが、他県ではリンクの追えない市中感染例も確認されていることから、今後沖縄県でも早々に市中で拡大することはほぼ確定していると考えている。

イギリス政府の公表によると、オミクロン株の倍加時間は2.5～3日とされている。これをもとに、今後の新規感染者数を推定すると、年末年始休暇中の急増を想定しておく必要がある。なお、この推定には、デルタ株の感染者は含んでいない。(By 高山先生)

現在、国の方針として、オミクロン株陽性者の全例入院、濃厚接触者の全例ホテル管理等の方針が示されその方向で沖縄県でも調整を行っているが、これらは海外からの水際対策、封じ込めをそもそもの目標としている。沖縄県ではオミクロン患者の感染源が空港検疫と異なりボリュームを持つ集団からの複数の感染源であり、陽性確定者はまだ確保病床の範囲内で収まっているため調整可能だが、とくに濃厚接触者の調整には当初より難渋している。もうすぐ来る感染拡大時に現状の方針を維持しながらの調整は不可能であり、感染拡大防止と有症状者の治療や重症者の救命に医療が注力できる対策とのバランスが求められる。

## 現状の国からの指針

- 1、オミクロン陽性またはL452R陰性
  - ・全例入院、確定するまでは個別対応（オミクロン同士の同室管理は可能）
  - ・オミクロンとデルタ等の同室管理は不可
  - ・退院は症状軽快24時間以降、無症状は6日間経過後PCR2回陰性確認
- 2、濃厚接触者
  - ・全例宿泊療養 14日間
  - ・入所者同士の接触は避けること
  - ・3日、6日、10日にPCR等の検査
  - ・臨時応急的な措置として自宅療養が可能
- 3、接触者
  - ・広く考えて検査実施すること

## 沖縄県の実情

- 1, オミクロン陽性確定者はこれまでは重点病院で入院可能であったが、個別対応可能なベッドは限られる。無症状、軽症の陽性者に医療資源を費やしている。
- 2, 濃厚接触者には高齢者や小児、透析等で宿泊療養に適さない方や同意が得られない方も多く、自宅療養や疑似症認定しての入院で対応している。宿泊施設もだが、自宅療養の場合の検査についても現在の体制で続ける限りもうじきキャパオーバーの見込み。
- 3, オミクロン、非オミクロンの結果が出るまでの調整が難しい。
- 4, オミクロン、非オミクロンのコホート管理ができないため医療資源の消費量が多い。
- 5, 関係者全員、近々破綻を予想し、有症状者対応へのシフトを願っている。

## オミクロン 入院と受け入れ態勢

12月25日現在  
オミクロン陽性確定 10名  
L452 R陰性・ゲノム待ち 3名

濃厚接触者 61名  
うち陽性へ 8名  
(全員入院中)  
うち宿泊療養 34名  
うち自宅待機 19名

(12月25日 16:20)

医療機関名	オミクロン関連		
	入院中の 陽性確定 患者数	確保された 個室対応 病床数	新たに 受入可能な 病床数
	0	1	1
	1	7	6
	2	6	4
	0	2	2
	0	9	2
	2	6	3
	0	0	0
	1	2	2
	0	0	0
	0	2	2
	0	0	0
	0	4	4
	0	0	0
	0	0	0
	3	8	1
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	1	0
	0	0	0
	0	0	0
旧重点・協力医療機関合計	9	48	27

## オミクロン株による県内流行シナリオ



## 市中感染発生後の方針案

現状		当面の検討課題
陽性者	全例入院	軽症者・無症状者の宿泊施設療養を認める (特段の事情があれば自宅療養)
	デルタとオミクロンのコホート隔離	病床が対応できる範囲で実施
	退院時PCR陰性確認	検査を不要とし、従来の方針に戻す
濃厚接触者	全例ホテル管理	自宅療養を併用し、必要性のある者のみ入所 (高リスク同居者、旅行者等)
	ホテル、自宅でのPCR検査	入所前の検査のみとし、入所後は発症した時点で検査。 (または迅速抗原検査の配布で対応)

国は年始までの水際対策を求めているが実運用では不可能。上記方針への変更についてご意見をいただきたい。